

社員一人ひとりが仕事への自覚を深め、やる気に火をつけてほしい。それは多くの経営者の願いです。

スーパーを経営するA氏は、社員の能力アップを図る狙いで、指定した図書についての感想文提出を毎月課しました。始めた当初は、わずか数行のものがほとんどでした。それでも教育は根気なり、と続けるうちに、徐々に内容に変化が見られるようになっていきました。

精肉部担当の三十歳の男性社員は、「今回のテーマは 誇り でした。自分の切った肉で一人のお客様からもクレームがないことが、私の確かな誇りです」という感想文を提出してきました。

レジ担当の女性社員は、レジの技能検定試験があることを知り、自ら受験を希望。パート職員も含め同じレジ担当者に受験の誘いまでかけてくれるなど、社内全体に仕事意識の向上が現われ、Aさん自身がその変化に驚きを覚えました。

ここで大切なことは、単に感想文提出を続けただけで、社員のレベルアップに繋がったのではないということです。

Aさんは、忙しい業務の合間をぬって、感想文すべてに対して、必ずコメントを書き添えて返却。内容の素晴らしいものは、朝礼など全体の場で紹介しました。

社員のレベルが向上した大きな理由は何でしょうか。「自分のことを社長は見えてくれる。認めてくれている」と

## 存在を認める眼が 社員を成長させる



え・牧えみこ

いう確信こそが、彼らの眠れる能力を発揮させたのです。

「仕事をやる上で、お金や楽しさ、あるいは達成欲求や自己実現欲求が動機となっているように見える場合でも、実は尊敬されたい、認められたいといった承認欲求が背後にある」

同志社大学の太田肇教授は、このように指摘します。周囲から認められているという意識が仕事に及ぼす影響は、非常に大きなものがあるのです。

認められている 好意的に見られている という思いは、自分は信じてもらえている という自信に移行し、それが人を成長させる源となります。

経営者は、教育者です。仕事に関して教え導くのはもちろん、一人ひとりが持ち合わせている「個性」という良さを引き出すことは、社員教育の根本です。

社員に不満を持っていたある経営者が、それまでの思い違いを反省。社員の誰もが素晴らしいものを持っていると信じ続けた結果、彼らの働きが飛躍的に向上し、半年で売り上げが八倍に伸びたという体験もあります。

社員のやる気を引き出すには、トップの「眼力」に大きなウエイトがかかります。この社員はこのような素晴らしい面を持っている。他の者にはないセールスポイントがある と見抜く眼を養い、それを称える言葉を持ちましょう。